

出題の意図

論述試験（授業実践開発）

本問は、現代の学校教育における最重要課題の一つであるICT活用教育について、どの程度深い理解と実践的な構想力を持っているかを測ることを目的としています。単にGIGAスクール構想の知識を問うだけでなく、その理念と現実の教育現場との間にある課題を的確に捉え、乗り越えようとする当事者意識や探究心を評価します。

出題の意図は、以下の3点に集約されます。

1. 課題分析能力の評価

「1人1台端末」環境の理想と現実のギャップを的確に捉え、その背景にある課題を、児童生徒、教師、家庭、学校組織など、多角的な視点から構造的に分析する能力を評価します。表面的な問題点の列挙に留まらず、なぜそのような課題が生じているのかという本質に迫る洞察力を求めます。

2. 具体的・創造的な実践構想力の評価

分析した課題に対し、文部科学省が掲げる「個別最適な学び」と「協働的な学び」の理念を踏まえた上で、具体的な解決策を構想する能力を評価します。単なる理想論や抽象的な精神論ではなく、特定の教科や領域、学級活動など、具体的な指導場面を想定し、リアリティのある実践を描けるかを重視します。そこには、受験者自身の教育観や子ども観が色濃く反映されるため、教育への情熱や独創性も見ることができます。

3. 教育理念と実践を結びつける論理的思考力の評価

自らが提案する実践が、なぜ「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現に繋がるのか、その教育的価値や意義を論理的に説明する能力を評価します。教育の原理・原則や自身の経験知と、具体的な実践内容とを往還しながら、説得力のある論述を展開できるかを測ります。

以上の評価を通して、本学が育成を目指す「高度な教育実践力」についての資質・素養を受験者がどの程度有しているかを総合的に判断します。